0

0

発掘だより

第28号

0

0

2007.2



ちょっと寄ってみませんか?

─ 三好氏ゆかりの散歩道・板野町編4─



~赤沢信濃守の居城・板西城址~

板野町編最終回の今月は、赤沢信濃守(あかざわしなののかみ)の居城だった板西城址です。 板野町古城には、今でも「城/内」、「城/西」などの地名が残っていて、かつてそこにお城が あったことがわかります。



板野町内には,犬伏谷川,松谷川,黒谷川,宮川内谷川など,阿 さん山脈に源を持つたくさんの川が流れています。

板野町の平野部では、これらの川からの砂があつくたまったところがあって、ぬま地の間にいくつかの島状の高まりを作っています。 板西城址はそのような島状の高まりの1つの上にあり、地名を「古



城(ふるしろ)」といいます。

歴史の丘に登ると、 板西城址のある古城 の集落全体を見ることができます。

勝瑞城館や吉野川 との位置関係もよく わかりますよ。

板西城址とその周辺

北側の山から見た板西城址

板西城址

1町(約120m)四方の大きさがあったといわれています。くわしい場所はわかっていませんが、「城ノ内」と呼ばれているあたりではないかといわれています。

平安時代の終わりごろ、屋島の合戦に向かう源義経の道案内をして、源氏の勝利にこうけんした近藤六親家(こんどうろくちかいえ)によって築かれたといわれています。親家にはあとつぎがなかったため、赤沢兵庫頭宗定(ひょうごのかみむねさだ)に城をゆずり、その後赤沢氏の居城となったと伝えられています。



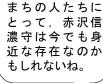
城あと近くのほこら

戦国時代には、勝瑞城館の西の守りとして重要な位置にありましたが、 天正10(1582)年、中富川の合戦で信濃守がうち死にした時、城も落と されました。

現在、城あとの近くには案内板とほこらがあり、昭和30(1965)年3月31日に板野町史せきに指定されています。



信濃守の典さんのお墓 といわれています→





振りそで地蔵

ふりそで姿のおじぞうさん

犬伏にある振りそで地蔵は、赤沢信濃守の娘「カヨ」をくようする ために建てられたお地蔵さんです。

天正10(1582)年、中富川の合戦で信濃守が討死にしたとき、幼い姫カヨは母親とともににげました。しかし、にげられないと思った母親は姫をにがして自害し、カヨも土佐方の兵士につかまって殺されました。

命の短かったカヨ姫をあわれに思った村人たちが、振りそで姿のおじぞうさんを作ってまつりました。のちに「振りそで地蔵」、「カヨ地蔵」とも呼ばれるようになり、子どもを守るお地蔵さんとして親しまれています。

ただしおじぞうさんが建てられたのは江戸時代の中ごろで、ずっと後の時代のことです。





下庄八幡神社

下庄八幡神社

古城から南へ行って、宮川内谷川をわたったところが下庄の集落です。十二人衆の一人、阿部采女正(あべうねめのかみ)のやしきがあったと伝えられているところです。八幡神社にある文けんには、赤沢信濃守とその家臣が信仰していたことや、長宗我部(ちょうそかべ)氏がせめてきたときに焼きはらわれたことなどが記されています。

もう一人の戦国武将 川端越前守



板野町の東部,川端のあたりを治めたのが, 川端城主・川端越前守(かわばたえちぜんのかみ) です。

鎌倉時代に富吉庄(とみよしのしょう、今の藍住町富吉のあたり)の地頭という役職についていた漆原(うるしはら)氏が、川端村に住むようになって、川端殿と呼ばれるようになったといわれています。

川端城は、JR阿波川端駅の近くにあったと言われていますが、 くわしい場所はわかっていません。近くにある諏訪神社は、その 昔、川端城主が城の守り神として建てたものだと言われています。



諏訪(すわ)神社

K.Suzaki

発掘現場ニュース



調査区全体をさつえい しました。同じ方向に並ん だみぞの間にたくさんの 潰こうがありました。



館跡第12次発掘調査は終わりました。たくさんの遺ごうが見つかり、生活の場としてよく使われていたことがわかりました。何に使われたのか、よくわからない遺ごうもありますが、どのような生活が行われていたのかを考える資料が得られました。

問い合わせ先

藍住町教育委員会 社会教育課 勝瑞発掘現場事務所

TEL·FAX (088)641-3466

URL: http://www15.ocn.ne.jp/~shouzui/ E-mail: syugomachishouzui@air.ocn.ne.jp